

## 外務省での勤務を通じて

平成30年9月  
外交実務研修員 金田 克俊  
(宮崎県より派遣)

### 1. はじめに

平成29年4月より宮崎県から派遣され外交実務研修員として研修させていただいております。現在、中東アフリカ局中東第二課に勤務し、バーレーンという国を担当しています。以下、中東第二課での業務を御紹介したいと思います。

### 2. 担当国

バーレーンという国名は、サッカーをはじめスポーツを通して聞かれる方もいらっしゃると思いますが、国のイメージや場所まで思い浮かぶ方は多くないのではないのでしょうか。

バーレーンは、ペルシャ湾(アラビア湾)のほぼ中央に位置し、東京23区と川崎市を合わせた面積とほぼ同じくらいの島国です。ハリーファ家を王族とする立憲君主制の王国であり、宗教はイスラム教です。島国ではありますが、サウジアラビアとコーズウェイ(連絡橋)でつながっており、週末には同橋を利用して、多くの人々がバーレーンを訪れます。

原油価格の下落によって国家財政が逼迫しており、石油収入依存からの脱却を図るため、産業の多角化に取り組んでいます。

日本との関係では、1934年に、バーレーンから初めて原油を出荷した先が日本であるというつながりがあります。1972年には外交関係を樹立し、両国は非常に良好な関係にあります。これまで、バーレーンの国王や皇太子の訪日、また、安倍総理のバーレーン訪問が実現しており、両国関係の強化につながっています。

### 3. 業務内容

通常業務は、主に大使館と連絡をとりながら、担当国に関する政治、経済等、様々な情報を収集・分析することになります。その他、年に数回、要人往来や各イベントの準備などもあります。今回は、ルーティーン以外で個人的に印象に残っている業務を御紹介します。

まず、外務省での勤務を始めて最初に経験したのが、安倍総理主催のイフタールです。イフタールとは、イスラム暦における断食月の日没後の食事のことであり、昨年6月、イスラム教各国の駐日大使等を総理官邸へ御招待して開催されました。私は、事前準備として被招待者名簿を管理し、当日も官邸内での外交団の案内などを行い

ました。私にとって官邸内での作業も各国大使等と接することも初めての機会でしたので、大変緊張したのを覚えています。

また、要人往来の1つとして、昨年12月に河野外務大臣のバーレーン訪問が実現しました。毎年、バーレーンの首都マナーマにおいて、英国国際戦略問題研究所(IISS)が主催するマナーマ対話が行われます。本対話は、地域の安全保障をテーマとして、各国の外交・防衛に関わる閣僚や有識者等が集う会合であり、昨年、河野大臣も同会合に参加され、日本と中東の結びつきについてステートメントを行ったところでした。併せて、河野大臣とバーレーンの国王、皇太子、外務大臣との会談が実現し、地域情勢における認識やあらゆる分野での協力促進など二国間関係の更なる強化について確認しました。河野大臣のバーレーン訪問は、私にとって初めての在外での業務であり、自分のことで精一杯で周りを気にする余裕もなく、多くの方々にサポートしていただきました。外交という華やかに見える舞台での実際の業務を身を以て知ることができた大変貴重な機会となりました。



IISS マナーマ対話

#### 4. 最後に

県では税務行政、県土整備行政(建設業)に携わっており、国際関係の仕事をしたことはなく、もちろん外務省と連絡を取り合うこともありませんでした。不安に思いながら外務省での仕事が始まり、慣れないことに戸惑うことも多くありました。しかし、今は、県にいては知ることのなかった世界で仕事ができていること、一県職員として、誰もが経験できることではないこのような機会を与えてくださったことに感謝しています。特に、ここで得られた人とのつながりは、県庁生活のみならず今後の人生において、かけがえのない財産です。外務省での勤務も残り約2年半です。決して長くはありませんので、県に戻って何ができるかを考えながら、後悔のないよう有意義に過ごしていきたいと思います。